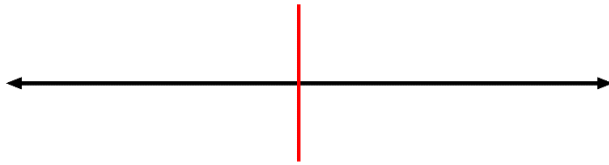


1-2. 常識と非常識

常識と非常識の境界線をどこに引くか。

「横線に縦の線を入れ2つに分割してください」という課題を出すと、多くの人は真ん中に縦線を入れます。

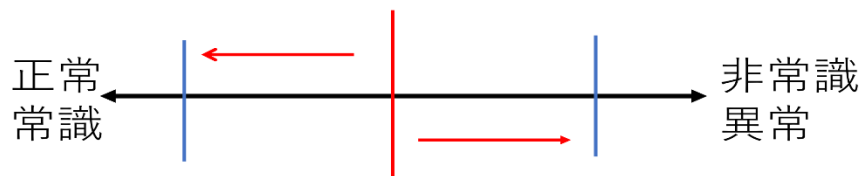


では、みなさんこの縦の線を境界線だと思って下さい。

左に行くほど正常で常識的な世界。右に行くほど異常で非常識な世界になると考えて下さい。上の図では真ん中に境界線が引かれています。正常と、異常の世界が半分ずつになります。

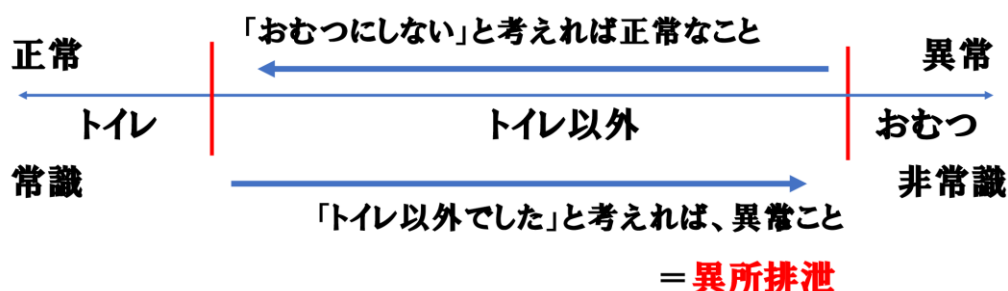
次に、境界線が左の方向に移動したとします。すると、正常の範囲が狭くなり、異常の範囲が広がります。反対に、境界線が右の方向に移動したとします。すると、正常の範囲が広くなり、異常の範囲が狭くなります。

わたしなどは、正常な範囲が少なくなると息苦しく思うのですが、みなさんはいかがでしょう。



具体的に「おしこをする」という状況を考えてみましょう。

おしっこをする



オムツにおしっこをする行為をみなさんはどう考えますか。思い出してみてください。2歳、3歳の頃にさんざんオムツにしないように訓練を受けたことを。おまるにできたときに、親は手を叩いて褒めてくれましたよね。そうして、おしっこはオムツにはいけないと、おしっこはトイレでするものと覚えていきました。

もう少し大きくなると、おしっこはトイレでするものと教えられます。おしっこをする場所によっては犯罪になります。ましてや、ひと前でおちんちんを出せば犯罪です。

そうして、おしっこはトイレですることが当たり前のことで、トイレですることが常識と認識します。

では、おしっこがどうしても我慢ができなくなったらどうでしょう。現代では街のあちこちにコンビニがあり、コンビニに入ればトイレを借りられます。けれど、コンビニがなかった時代にはせいぜいパチンコ屋かガソリンスタンドに入ってトイレを借りるくらいしかありませんでした。パチンコ屋もガソリンスタンドも見つからないときは、ちょっと草むらに入って用を足すしかありません。

つい最近、大雪で高速道路に30時間以上閉じ込められる出来事がありました。この時、車に閉じ込められた人は（本人からは話を聞きました）パーキングエリアまでトイレを目指して歩いたそうです。携帯トイレが届くまで、間に合わないときは雪の壁に隠れてしていたそうです。大の方かというと「は、は、は」と笑っていました。

認知症の患者は、トイレの場所が分からなくなります。トイレを探して何分もうろうろするかもしれません。

リハビリパンツなどのオムツを履いていると、「大丈夫よ」「そこにおしっこして」と優しく語りかけてくるスタッフがいます。当の本人にしては何にも優しくはないのですが。なんでって、オムツにおしっこをしてはいけないと、小さいころに教わったのです。オムツにおしっこをすることは異常なことです。大人として、やってはいけないことですから。

さて、このような状況に陥った患者さんがどうしても我慢できなくなったとき、個室のゴミ箱におしっこをする。廊下の隅っこにおしっこをする。雪の中で車を降りて、高

速道路でおしっこをした人と何か違いがあるでしょうか。パンツに漏らしてはいけないからした行為に何ら違いはありません。けれども病院や介護施設で個室のゴミ箱や廊下の隅っこにおしっこをすると、「異所排泄」というレッテルが張られます。迷惑な人。問題行動を起こす人。BPSD(+)とカルテに記載されます。ルールが守れない人として、病院や施設から追い出されてしまいます。追い出されなかったとしても、オムツを着けられ、鍵付きのつなぎ服を着させられてしまいます。

この患者さんは「オムツにおしっこをすることは異常なこと」と考えオムツにしなかったのです。ただそれがゴミ箱や隅っこただただけです。これが田んぼや山の中だったら何も問題なかったのです。トイレに連れていけなかったわたしたちに問題があるのです。

もしも常識と非常識を分ける境界線が右端のほうにあったら、この患者さんは正常なこと、常識なことをやっただけです。

けれども、病院や施設の常識の線は左側にあります。トイレ以外でおしっこをすることは異常なことで非常識な人になります。

さて、境界線を引くのはみなさんです。みなさんならどこに境界線を引きますか。